

Bible Forum in KOBE

~KOBE MOTOMACHI Bible Forum~



~KOBE Bible Forum~



ニックネーム
KBF(神戸ビーフ)
KMBF(コンビーフ)

第6回

神戸元町聖書フォーラム

クレイ聖書解説コレクション
「ヨハネの黙示録」講解メッセージ

黙示録12：1～14：20

2016/6/25(土)

お願い！

このパワーポイント資料は

Clay クレイ聖書解説コレクション 「ヨハネの黙示録」

を基に作成しております。

ハーベスト・タイム・ミニストリーズから発売の
電子書籍版か書籍版(紙版)テキストと合わせて
必ずご参照・ご活用下さい！

*神戸聖書フォーラムでまとめ買いしております。
お求めの際はお気軽にお声掛け下さい。

1. イントロダクション

1. 神のご計画の全貌（全体構造）を再確認！



2. 終末論の全貌（全体構造）を再確認！



3. 「ヨハネの黙示録」の全体構造を再理解！

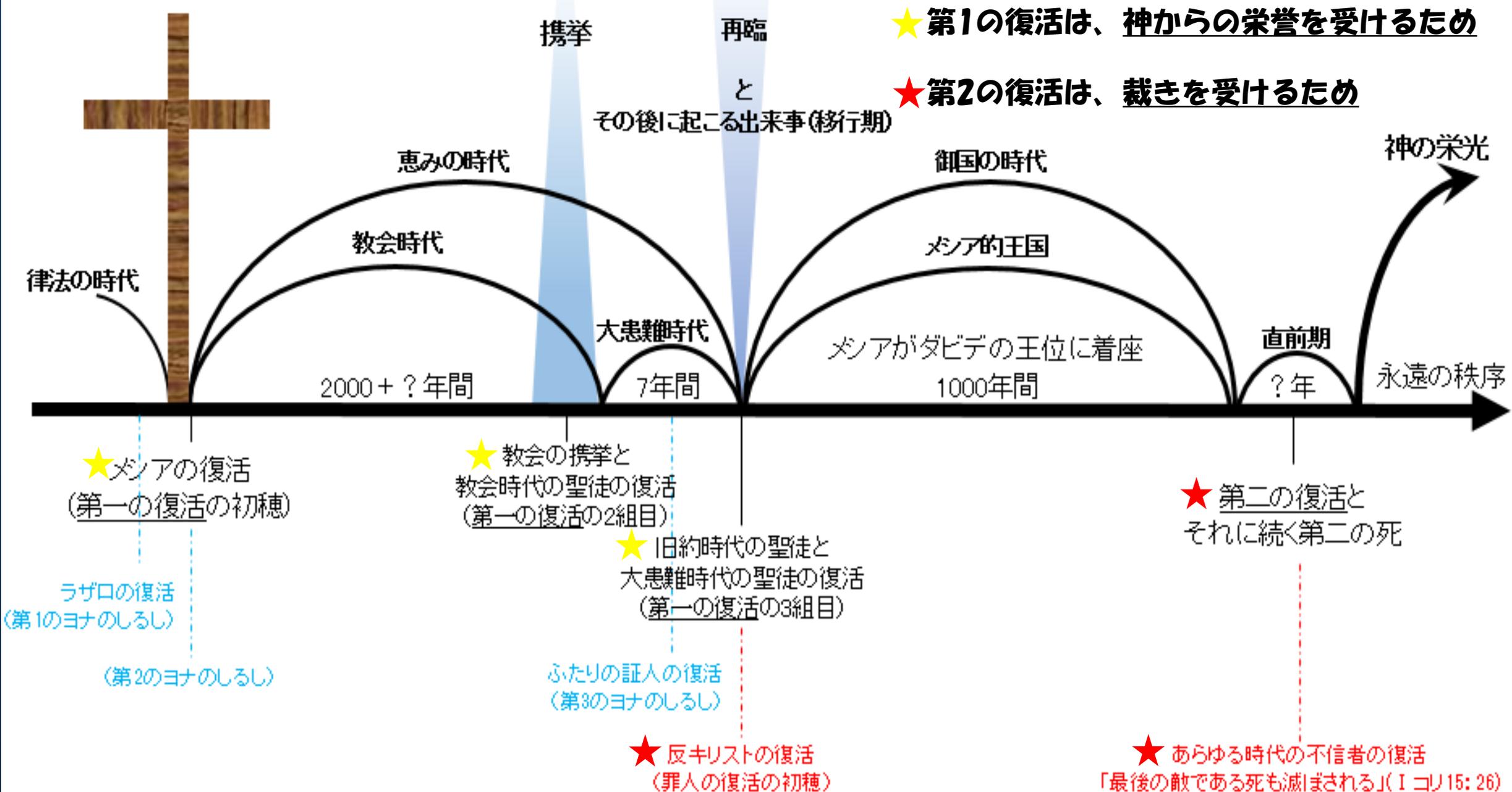
全体構造理解の大前提！

ティスペンセーションナリズム

定義「ティスペンセーションとは
神の計画が進展していく過程において出現する
明確に区分可能な神の経緯（時代・時代区分）

- (1) 聖書を字義通りに解釈
- (2) イスラエルと教会を一貫して区別。
神がユダヤ民族と
アブラハム契約を結ばれたこと
それが永遠の契約であることを認める。
- (3) 歴史を貫くテーマは「神の栄光」

時代区分	過去					現在	未来	神の栄光 時間を超越した永遠の秩序 黙21:1 ~22:5
	① ~無垢の時代~	② ~良心の時代~	③ ~人間による統治の時代~	④ ~約束の時代~	⑤ ~律法の時代~	⑥ ~恵みの時代~	⑦ ~御国の時代~	
聖書箇所	創1:28 ~3:8	創3:9 ~8:14	創8:15 ~11:32	創12:1 ~出18:27	出19:1 ~使徒1:26	使徒2:1 ~黙19:21	黙20:1 ~10	
中心人物	アダム	アダム	ノア	アブラハム	モーセ	パウロ	メシア	
1. エデン契約 聖書箇所	→ ・創1:26~31・創2:16~17							
2. アダム契約 聖書箇所		【2】 → ・創3:14~19						
3. ノア契約 聖書箇所			【3】 → ・創9:1~17					
4. アブラハム契約 聖書箇所				【4】 → ・創12:1~3 ・創12:7 ・創13:14~17 ・創15:1~21 ・創17:1~21 ・創22:15~18				
5. モーセ契約 聖書箇所					【5】 → ・出19:3~8 ・広くは出20:1~31:18			
6. 土地の契約 聖書箇所				→	【6:土地】 → ・申29:1~30:1 *特に申29:1に注目			
7. ダビデ契約 聖書箇所				→	【7:子孫】 → ・Ⅱサム7:11b~17(ソロモン強調)・Ⅰ歴17:10b~15(メシア強調)			
8. 新しい契約 聖書箇所					→	【8:祝福】 → ・エレ31:31~34		



序言「まえがき」(1:1~3)

→ 1:1「イエスキリストの黙示」

あいさつ(1:4~8)

→ 1:7「黙示録のテーマ」

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9~20)

→ 1:19「黙示録のアウトライン」

II. 今ある事: 教会時代(2:1~3:22)

III. この後に起こる事(4:1~22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1~5:14)

2. 大患難時代(6:1~18:24)

(1)大患難時代の前半に起こる出来事(6:1~9:21)

(2)大患難時代の中間に起こる出来事(10:1~14:20)

キリストの生涯を要約する幻(12:1~5) 36

天における戦い(12:6~12) 37

サタンによるユダヤ人迫害(12:13~18) 38

反キリストの支配(13:1~10) 39

第二の獣(13:11~15) 40

獣の刻印(13:16~18) 41

シオンの山の上に立つ小羊(14:1~5) 42

第二の宣告から第四の宣告まで(14:6~12) 43

第五の宣告から第七の宣告まで(14:13~20) 44

(3)大患難時代の後半に起こる出来事(15:1~16:21)

(4)反復: 2つの大バビロン(17:1~18:24)

3. 再臨とその後起こる出来事(19:1~20:3)

4. メシア的王国(20:4~6)

5. その後の出来事(20:7~15)

6. 永遠の御国(21:1~22:5)

結論(22:6~21)

本日
第6回 ★

→ 再臨までのプロセス

→ クライマックスは再臨

1) 1 : 1 「イエスキリストの黙示」

「1:1 イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。そしてキリストは、その御使いを遣わして、これをしもべヨハネにお告げになった。」

2) 1 : 7 「黙示録のテーマ」

「 1:7 見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。地上の諸族はみな、彼のゆえに嘆く。しかり。アーメン。 」

3) 1 : 19 「黙示録のアウトライン」

「1:19 そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。 」

黙示録の要点

(1) 黙示録のテーマは、**主の再臨とそのプロセス** (黙1:7)

(2) 再臨の条件は、**ユダヤ人の民族的回心** (ゼカリヤ12:10)

(3) 終末論の出来事の流れ

携挙→大患難時代→ユダヤ人の民族的回心→メシアの再臨→千年王国

(4) 大患難時代の反ユダヤ主義の最大目的は、**靈的なもの(再臨の阻止)**

(5) 執筆経緯は「**迫害の中にいる人々**」と「**教会全体**」への励ましと矯正

「22:7 見よ。わたしはすぐに来る。この書の預言のことばを**堅く守る**者は、幸いである。」

「堅く守る」とは、「心に留め見張っている状態」を言います。

黙示録のテーマを理解し、主の大いなる再臨の日を待ちましょう！

そして再臨の条件であるユダヤ人の民族的回心を祈りつつ、教会としての責務を果たしましょう！

ユダヤ人に対する教会の責務 福音を伝える

(1) ロマ1:16

「私は福音を恥と思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。」

- ①動詞は現在形。今も真理である。
- ②福音は、ユダヤ人に、次に異邦人に伝える。
- ③この原則は、あらゆる団体、個人、地域に適用される。

(2) パウロの伝道原則 ” to the Jew first”

- ①使13：2～3 ②使13：5 ③使14：1
- ④使16：12～13a ⑤使17：1～2 ⑥使17：10
- ⑦使17：16～17a ⑧使18：4 ⑨使18：19
- ⑩使19：1 ⑪使19：8 ⑫使28：17

II.第6回) 黙示録12~14章アウトライン

- (1) 12 : 1~5 「キリストの生涯を要約する幻」
- (2) 12 : 6~12 「天における戦い」
- (3) 12 : 13~18 「サタンによるユダヤ人迫害」
- (4) 13 : 1~10 「反キリストの支配」
- (5) 13 : 11~15 「第二の獣」
- (6) 13 : 16~18 「獣の刻印」
- (7) 14 : 1~5 「シオンの山の上に立つ小羊」
- (8) 14 : 6~12 「第二の宣告から第四の宣告まで」
- (9) 14 : 13~20 「第五の宣告から第七の宣告まで」

***今回も、過去最多の9テーマを扱います。少し速度UPします！
情報量的には、今回がピーク、次回以降は半減する予定！**

III. 今後学ぶことの展望(最終回まで)

序言「まえがき」(1:1~3)

あいさつ(1:4~8)

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9~20)

II. 今ある事: 教会時代(2:1~3:22)

III. この後に起こる事(4:1~22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1~5:14)

2. 大患難時代(6:1~18:24)

(1)大患難時代の前半に起こる出来事(6:1~9:21) ←9:21と11:15がつながる

(2)大患難時代の中間に起こる出来事(10:1~14:20)

小さな巻物(10:1~11)

異邦人の時(11:1~2)

ふたりの証人の死(11:3~7)

ふたりの証人の復活(11:8~15)

第七のラッパ(11:14~19) ←11:15~11:19と15:1がつながる

キリストの生涯を要約する幻(12:1~5)

天における戦い(12:6~12)

サタンによるユダヤ人迫害(12:13~18)

反キリストの支配(13:1~10)

第二の獣(13:11~15)

獣の刻印(13:16~18)

シオンの山の上に立つ小羊(14:1~5)

第二の宣告から第四の宣告まで(14:6~12)

第五の宣告から第七の宣告まで(14:13~20)

(3)大患難時代の後半に起こる出来事(15:1~16:21)

(4)反復:2つの大バビロン(17:1~18:24)

3. 再臨とその後起こる出来事(19:1~20:3)

4. メシア的王国(20:4~6)

5. その後の出来事(20:7~15)

6. 永遠の御国(21:1~22:5)

結論(22:6~21)

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

←第5b回 10~11章(ちょうど中間の出来事)
・挿入節①

←第6回 12~14章(後半にずれ込む中間)
・鉢の裁きの理由(14章)
・挿入節②

←14章(10~13章と15~16章のつなぎの役)
・偽の三位一体に対する勝利の預言

← 第7回(7/16)

← 第8回(8/27)

← 第9回(9/24) 19章

第10回(10/29) 20章

← 第11回(11/26)

← 第12回(12/24)

IV.結論：中間期にも溢れる神の愛と恵み

(1)最終的勝利について

- ・神、キリスト、クリスチャン生活

(2)聖霊の働き

- ・聖霊を悲しませない歩みとは？
- ・自分のいのちのドアの管理とは？

(3)神の約束は永遠に有効であり変わらない

このメッセージは、後半にずれ込む中間期に起こる出来事について学ぼうとするものである。

ここからが本論！



黙示録12章

～サタンがイスラエルを攻撃する理由～

序言「まえがき」(1:1~3)

あいさつ(1:4~8)

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9~20)

II. 今ある事: 教会時代(2:1~3:22)

III. この後に起こる事(4:1~22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1~5:14)

2. 大患難時代(6:1~18:24)

(1)大患難時代の前半に起こる出来事(6:1~9:21)

(2)大患難時代の中間に起こる出来事(10:1~14:20)

★ キリストの生涯を要約する幻(12:1~5)

*ひとりの女

36

*赤い竜

天における戦い(12:6~12)

37

サタンによるユダヤ人迫害(12:13~18)

38

反キリストの支配(13:1~10)

39

第二の獣(13:11~15)

40

獣の刻印(13:16~18)

41

シオンの山の上に立つ小羊(14:1~5)

42

第二の宣告から第四の宣告まで(14:6~12)

43

第五の宣告から第七の宣告まで(14:13~20)

44

(3)大患難時代の後半に起こる出来事(15:1~16:21)

(4)反復:2つの大バビロン(17:1~18:24)

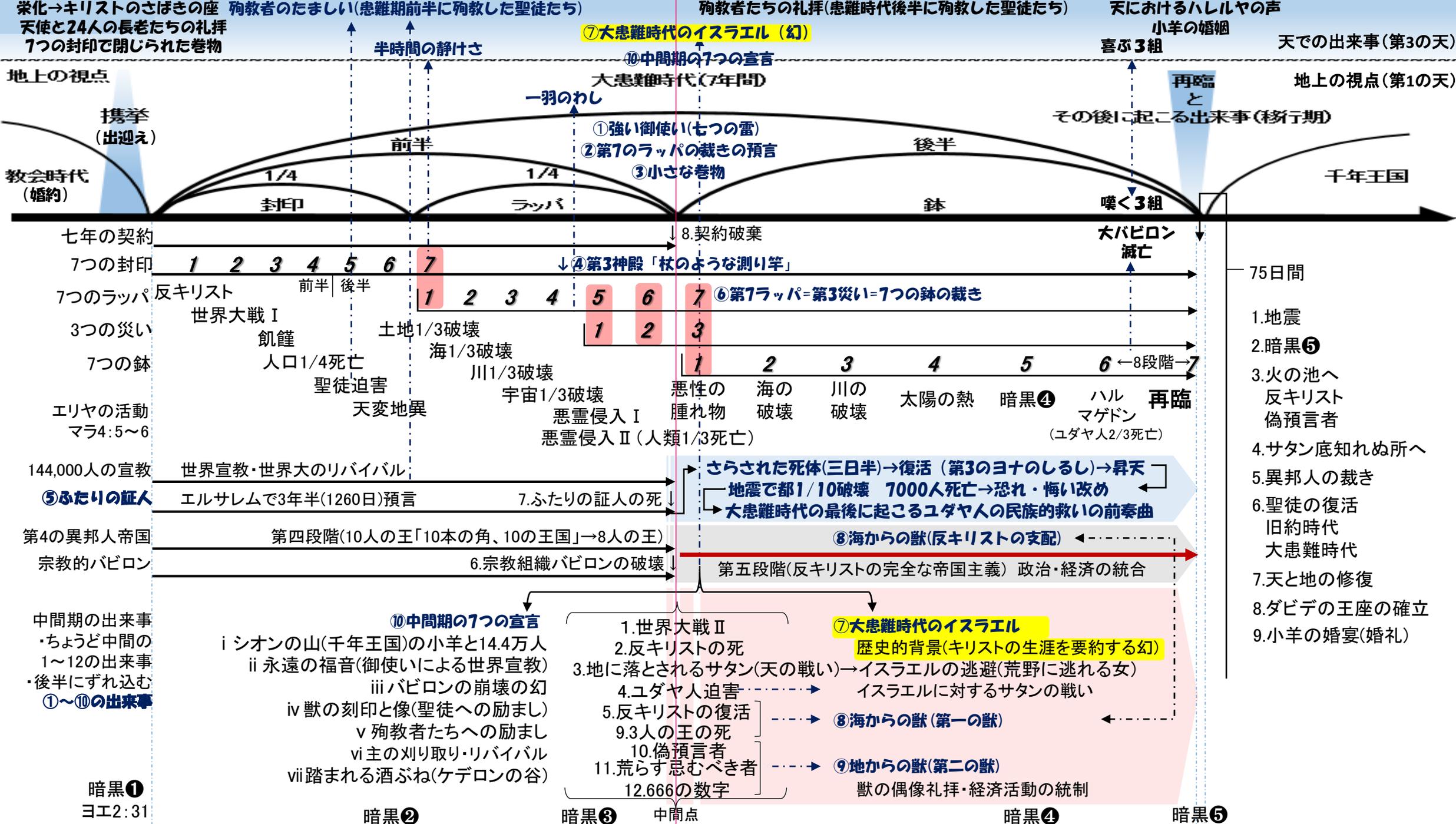
3. 再臨とその後に起こる出来事(19:1~20:3)

4. メシア的王国(20:4~6)

5. その後の出来事(20:7~15)

6. 永遠の御国(21:1~22:5)

結論(22:6~21)



36) 12:1~5 「キリストの生涯を要約する幻」

*歴史的背景

12:1 また、巨大なしるしが天に現れた。ひとりの女が太陽を着て、月を足の下に踏み、頭には十二の星の冠をかぶっていた。

12:2 この女は、みごもっていたが、産みの苦しみと痛みのために、叫び声をあげた。 12:3 また、別のしるしが天に現れた。見よ。大きな赤い竜である。七つの頭と十本の角とを持ち、その頭には七つの冠をかぶっていた。 12:4 その尾は、天の星の三分之一を引き寄せると、それらを地上に投げた。また、竜は子を産もうとしている女の前に立っていた。彼女が子を産んだとき、その子を食い尽くすためであった。 12:5 女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもって、すべての国々の民を牧するはずである。その子は神のみもと、その御座に引き上げられた。

創世記37：9～11（太陽、月と星々）

37:9 ヨセフはまた、ほかの夢を見て、それを兄たちに話した。彼は、「また、私は夢を見ましたよ。見ると、太陽と月と十一の星が私を伏し拝んでいるのです」と言った。

37:10 ヨセフが父や兄たちに話したとき、父は彼をしかって言った。「おまえの見た夢は、いったい何なのだ。私や、おまえの母上、兄さんたちが、おまえのところに進み出て、地に伏しておまえを拝むとでも言うのか。」

37:11 兄たちは彼をねたんだが、父はこのことを心に留めていた。

過去			現在の状態	将来	★大患難時代前半	★大患難時代後半	聖句箇所					
エジプト ?	アッシリヤ ?	異邦人帝国					10本の角	黙13: 1~10 黙17: 9~12				
		第一の異邦人帝国	第二の異邦人帝国	第三の異邦人帝国	第四の異邦人帝国(獣) 帝国主義(帝国主義の5つの段階)				ダニ7: 7~12			
		獅子のようで 鷲の翼	熊	ひょうのようで 4つの翼	第1段階	第2段階				第3段階	★ 第4段階	★ 第5段階
		頭は金	胸と両腕は銀	腹とももは青銅	大きな鉄のきばと10本の角★					ダニ2: 40~43		
		バビロン	メド・ペルシャ	ギリシア	統一王国 (ローマ帝国) ★ ヨハネの時代	東西分裂 (364年~現在) ★ 現在				統一された 世界政府 ★ 将来	★ 10本の角とは、帝国主義の 第4段階における10人の王。 反キリストが11番目の角として 台頭し3本を倒し8番目の角で ありながら他7人を支配する。 「昔いたが、今はいません。 しかし、やがて底知れぬ所から 上がってきます」 = 反キリストの復活を意味する。 そして彼は二人の証人を殺す。 (黙11:7)	彼(反キリスト)が 来れば しばらくの間 (後半3年半) 世界を支配する。 ★(獣の国)
10の王国 ★ 10本の角 (同時代の 10人の王「冠」)	★ 8人の王 一時代だけ (黙17: 12)	★ 反キリスト(獣) による支配 (完全な帝国主義)	ダニ7: 7~12 ダニ7: 19~27 ダニ9: 27 ダニ11: 36~45									
第1の頭 (山・王) (統治形態)	第2の頭 (山・王) (統治形態)	第3の頭 (山・王) (統治形態)	第4の頭 (山・王) (統治形態)	第5の頭 (山・王) (統治形態)	★ 第6の頭 (山・王) (統治形態=帝国主義)	★ 第7の頭(反キリスト) による完全な統治形態						

★7つの頭(7つの山・7つの王=完全な帝国主義に至るまでの統治形態の変遷)

「五人はすでに倒れたが、ひとりは今おり、ほかのひとは、まだ来ていません」=5人は過去、1人は現在、1人は将来
過去(エジプト?、アッシリヤ?、バビロン、メド・ペルシャ、ギリシア)、現在(ローマ帝国=帝国主義)、将来(反キリストによる独裁)

7つの頭

序言「まえがき」(1:1~3)

あいさつ(1:4~8)

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9~20)

II. 今ある事: 教会時代(2:1~3:22)

III. この後に起こる事(4:1~22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1~5:14)

2. 大患難時代(6:1~18:24)

(1)大患難時代の前半に起こる出来事(6:1~9:21)

(2)大患難時代の中間に起こる出来事(10:1~14:20)

★ キリストの生涯を要約する幻(12:1~5) 36

★ 天における戦い(12:6~12) ←12:6と12:13がつながる。12:7~12:12は挿入句 37

*荒野にのかれる女

*天における戦い

*ぎょうの霊想: 戸の外に立つサタン

サタンによるユダヤ人迫害(12:13~18) 38

反キリストの支配(13:1~10) 39

第二の獣(13:11~15) 40

獣の刻印(13:16~18) 41

シオンの山の上に立つ小羊(14:1~5) 42

第二の宣告から第四の宣告まで(14:6~12) 43

第五の宣告から第七の宣告まで(14:13~20) 44

(3)大患難時代の後半に起こる出来事(15:1~16:21)

(4)反復: 2つの大バビロン(17:1~18:24)

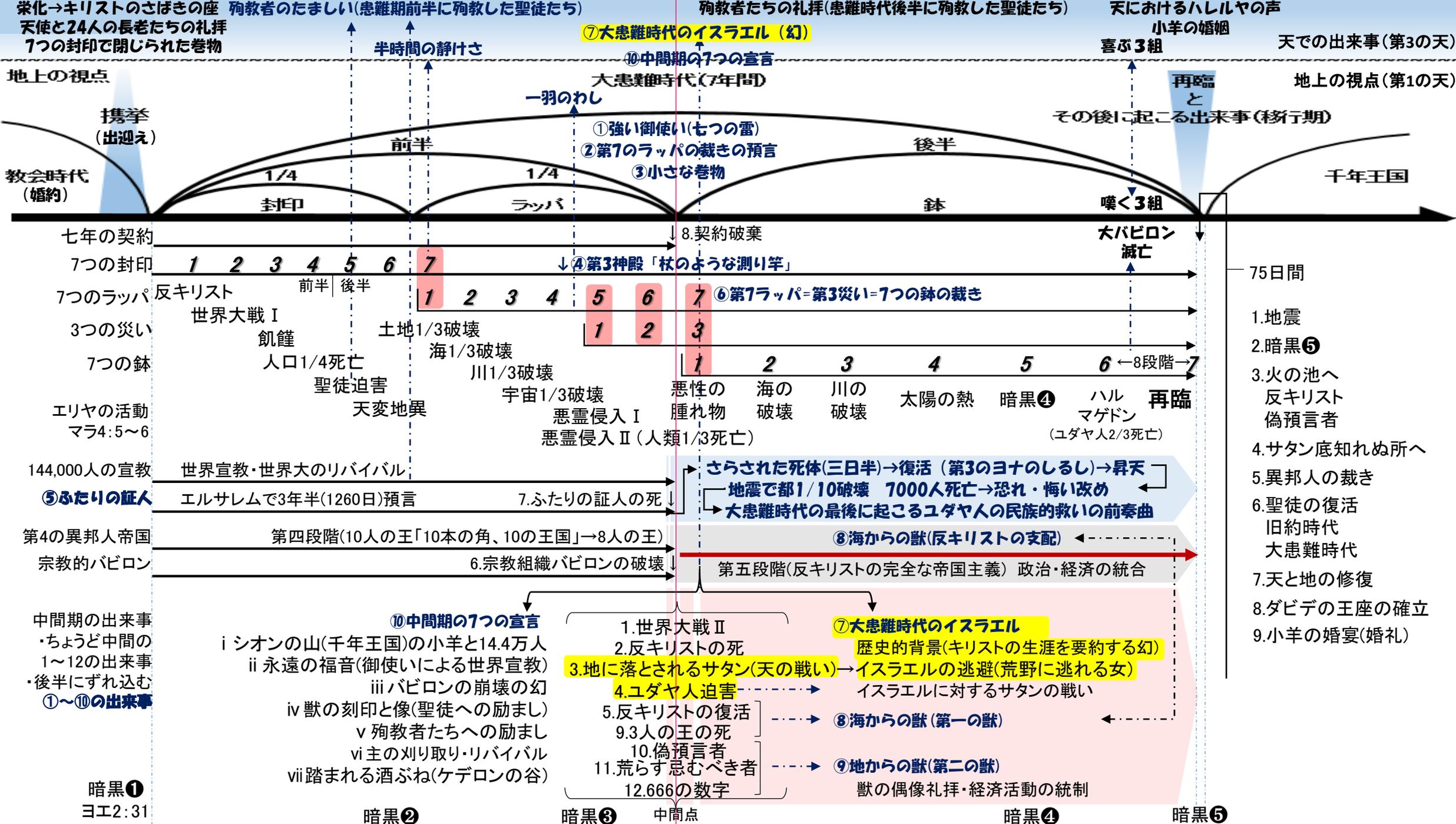
3. 再臨とその後に起こる出来事(19:1~20:3)

4. メシア的王国(20:4~6)

5. その後の出来事(20:7~15)

6. 永遠の御国(21:1~22:5)

結論(22:6~21)

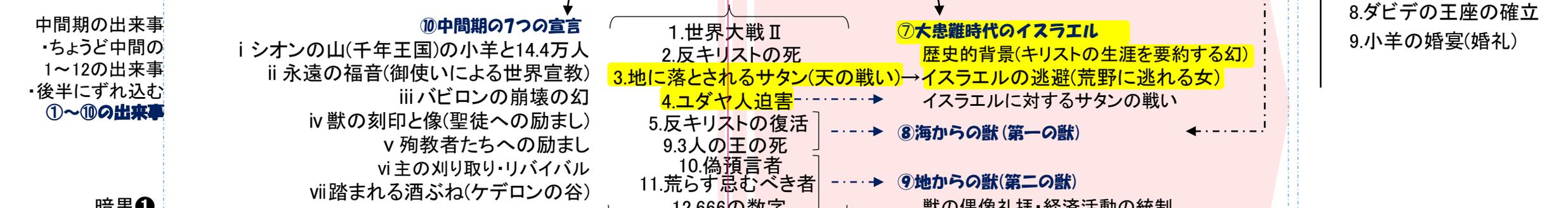
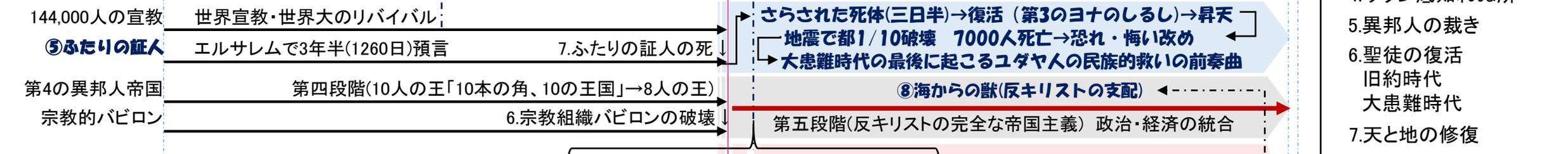
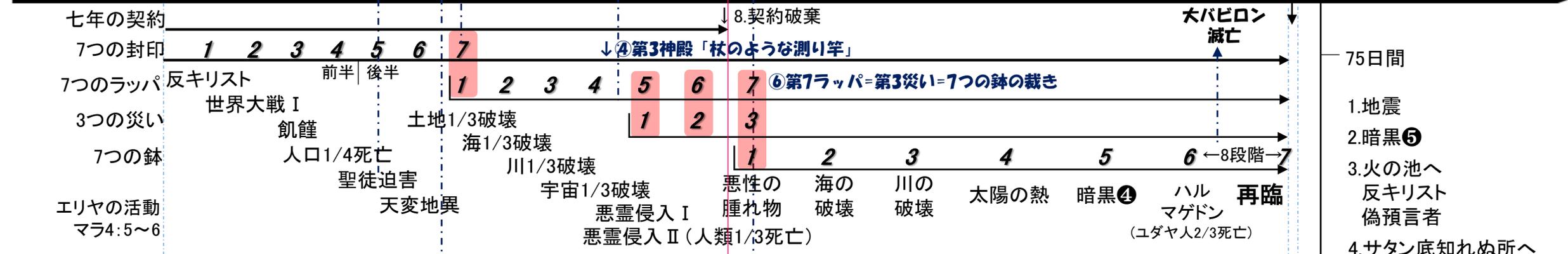
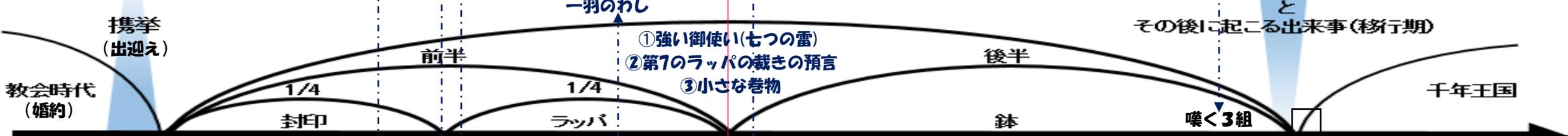


栄化→キリストのさばきの座 殉教者のたましい(患難期前半に殉教した聖徒たち)
 天使と24人の長老たちの礼拝
 7つの封印で閉じられた巻物

殉教者たちの礼拝(患難時代後半に殉教した聖徒たち)
⑦大患難時代のイスラエル(幻)

天におけるハレルヤの声
 小羊の婚宴
 喜び3組
 天での出来事(第3の天)

地上の視点
 地上の視点(第1の天)



暗黒① ヨエ2:31
 暗黒②
 暗黒③ 中間点
 暗黒④
 暗黒⑤

37) 12:6~12 「天における戦い」

***荒野にのがれる女「イスラエルの逃避」(12:6)**

12:6 女は荒野に逃げた。そこには、千二百六十日の間彼女を養うために、神によって備えられた場所があった。

マタイ24：15～28

24:15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべきもの』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。) 24:16 そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。 24:17 屋上にいる者は家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。 24:18 畑にいる者は着物を取りに戻ってはいけません。 24:19 だがその日、哀れなのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。 24:20 ただ、あなたがたの逃げるのが、冬や安息日にならぬよう祈りなさい。 24:21 そのときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難があるからです。

24:22 もし、その日数が少なくされなかったら、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、選ばれた者のために、その日数は少なくされます。 24:23 そのとき、『そら、キリストがここにいる』とか、『そこにいる』とか言う者があっても、信じてはいけません。 24:24 にせキリスト、にせ預言者たちが現れて、できれば選民をも惑わそうとして、大きなしるしや不思議なことをして見せます。 24:25 さあ、わたしは、あなたがたに前もって話しました。 24:26 だから、たとい、『そら、荒野にいらっしゃる』と言っても、飛び出して行ってはいけません。『そら、へやにいらっしゃる』と聞いても、信じてはいけません。 24:27 人の子の来るのは、いなずまが東から出て、西にひらめくように、ちょうどそのように来るのです。 24:28 死体のある所には、はげたかが集まります。

37) 12:6~12 「天における戦い」 ※時系列ではこちらが先 *地上に投げ落とされるサタン (12:7-12)

12:7 さて、天に戦いが起こって、ミカエルと彼の使いたちは、竜と戦った。それで、竜とその使いたちは応戦したが、12:8 勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。12:9 こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。

12:10 そのとき私は、天で大きな声が、こう言うのを聞いた。「今や、私たちの神の救いと力と国と、また、神のキリストの権威が現れた。私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。12:11 兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。12:12 それゆえ、天とその中に住む者たち。喜びなさい。しかし、地と海とには、わざわいが来る。悪魔が自分の時の短いことを知り、激しく怒って、そこに下ったからである。」

サタン・悪霊の行先

	現在・大患難時代前半	大患難時代中間	大患難時代後半	千年王国	永遠の裁き
★サタン	★第1の天			★アビス(底知れぬ穴・所) (ルカ8:31) ※一般の天使によって縛られ幽閉	★ゲヘナ (火の池)
悪霊				★地上に落とされる	
悪霊	アビス (底知れぬ穴・所) (ルカ8:31)	地上に解き放たれる (墮天使が開く)			
悪霊 (創6章の墮天使)	タータラス(暗闇の穴)				
獣(反キリスト)	患難期に頭角を現す	死んで復活し 世界を支配	政治・宗教を支配	獣はキリストに殺され(Ⅱテサ2:8) 復活(第2の復活)させられ(イザ14:9-11) ゲヘナ(黙19:20)へ	
偽預言者	-		反キリスト礼拝の 強要・迫害・666の刻印	偽預言者はゲヘナ(火の池)へ	

序言「まえがき」(1:1～3)

あいさつ(1:4～8)

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9～20)

II. 今ある事: 教会時代(2:1～3:22)

III. この後に起こる事(4:1～22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1～5:14)

2. 大患難時代(6:1～18:24)

(1)大患難時代の前半に起こる出来事(6:1～9:21)

(2)大患難時代の中間に起こる出来事(10:1～14:20)

キリストの生涯を要約する幻(12:1～5) 36

天における戦い(12:6～12) ←12:6と12:13が繋がる。12:7～12:12は挿入句 37

★ サタンによるユダヤ人迫害(12:13～18)

*荒野にのかれる女

*イスラエルの残れる者たち

反キリストの支配(13:1～10) 38

第二の獣(13:11～15) 39

獣の刻印(13:16～18) 40

シオンの山の上に立つ小羊(14:1～5) 41

第二の宣告から第四の宣告まで(14:6～12) 42

第五の宣告から第七の宣告まで(14:13～20) 43

(3)大患難時代の後半に起こる出来事(15:1～16:21)

(4)反復:2つの大バビロン(17:1～18:24)

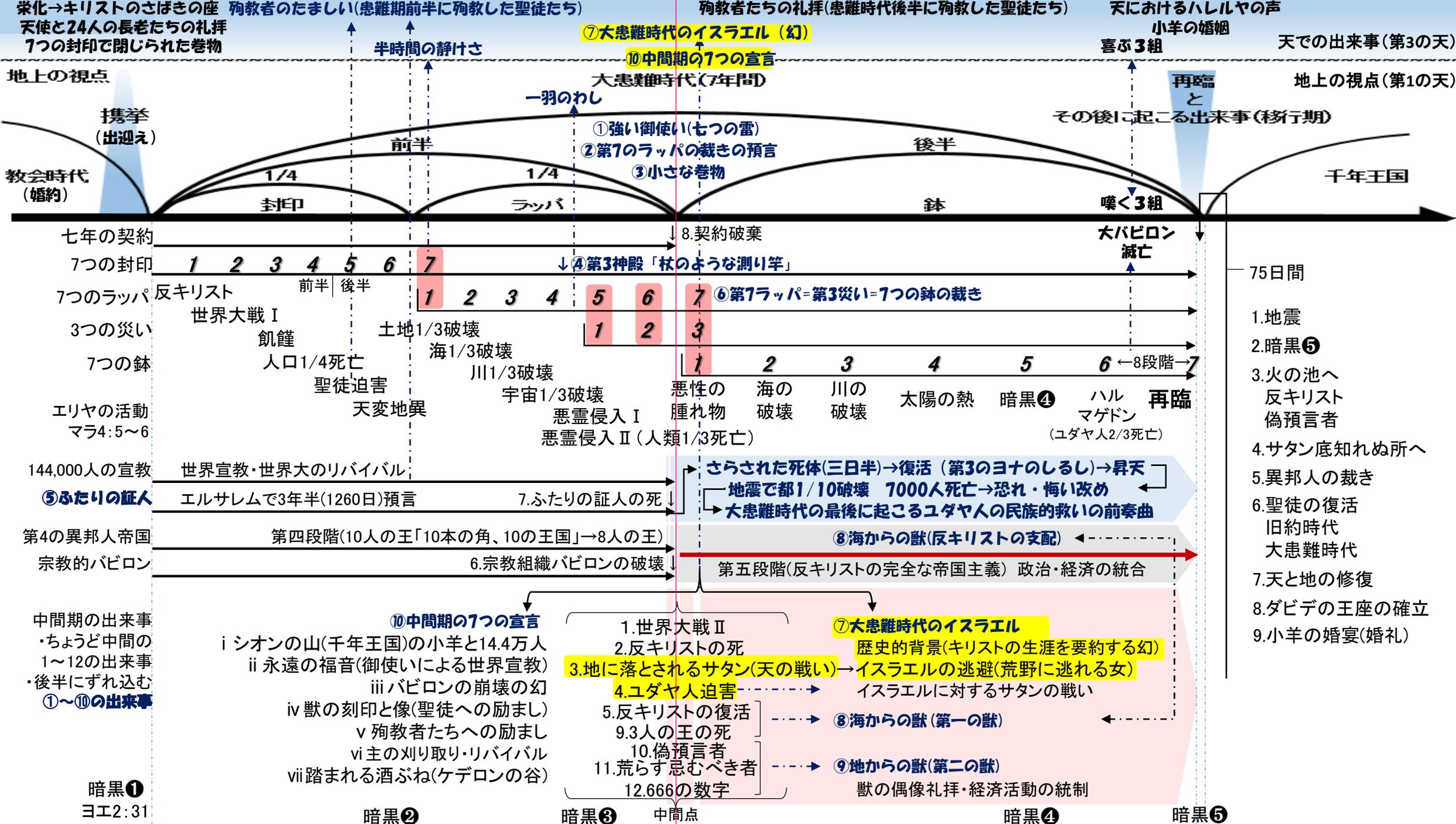
3. 再臨とその後に起こる出来事(19:1～20:3)

4. メシア的王国(20:4～6)

5. その後の出来事(20:7～15)

6. 永遠の御国(21:1～22:5)

結論(22:6～21)



38) 12:13~18 「サタンによるユダヤ人迫害」

*イスラエルに対するサタンの戦い

12:13 自分が地上に投げ落とされたのを知った竜は、男の子を産んだ女を追いかけた。12:14 しかし、女は大鷲の翼を二つ与えられた。自分の場所である荒野に飛んで行って、そこで一時と二時と半時の間、蛇の前をのがれて養われるためであった。12:15 ところが、蛇はその口から水を川のように女のうしろへ吐き出し、彼女を大水で押し流そうとした。12:16 しかし、地は女を助け、その口を開いて、竜が口から吐き出した川を飲み干した。12:17 すると、竜は女に対して激しく怒り、女の子孫の残りの者、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを保っている者たちと戦おうとして出て行った。12:18 そして、彼は海べの砂の上に立った。

「大鷲の翼を二つ与えられ」

出エジプト19:4

19:4 あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に載せ、わたしのもとに連れて来たことを見た。

申32:11

32:11 鷲が巢のひなを呼びさまし、そのひなの上を舞いかけり、翼を広げてこれを取り、羽に載せて行くように。

黙示録13章

～どの様にユダヤ人を迫害するか～

序言「まえがき」(1:1～3)

あいさつ(1:4～8)

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9～20)

II. 今ある事: 教会時代(2:1～3:22)

III. この後に起こる事(4:1～22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1～5:14)

2. 大患難時代(6:1～18:24)

(1)大患難時代の前半に起こる出来事(6:1～9:21)

(2)大患難時代の中間に起こる出来事(10:1～14:20)

キリストの生涯を要約する幻(12:1～5) 36

天における戦い(12:6～12) 37

サタンによるユダヤ人迫害(12:13～18) 38

★反キリストの支配(13:1～10) 39

*海から上って来た一匹の獣

*反キリストの復活

*きょうの霊想:サタンの嘘

←13章は、どのような手段で
ユダヤ人を迫害するかを解説

第二の獣(13:11～15) 40

獣の刻印(13:16～18) 41

シオンの山の上に立つ小羊(14:1～5) 42

第二の宣告から第四の宣告まで(14:6～12) 43

第五の宣告から第七の宣告まで(14:13～20) 44

(3)大患難時代の後半に起こる出来事(15:1～16:21)

(4)反復:2つの大バビロン(17:1～18:24)

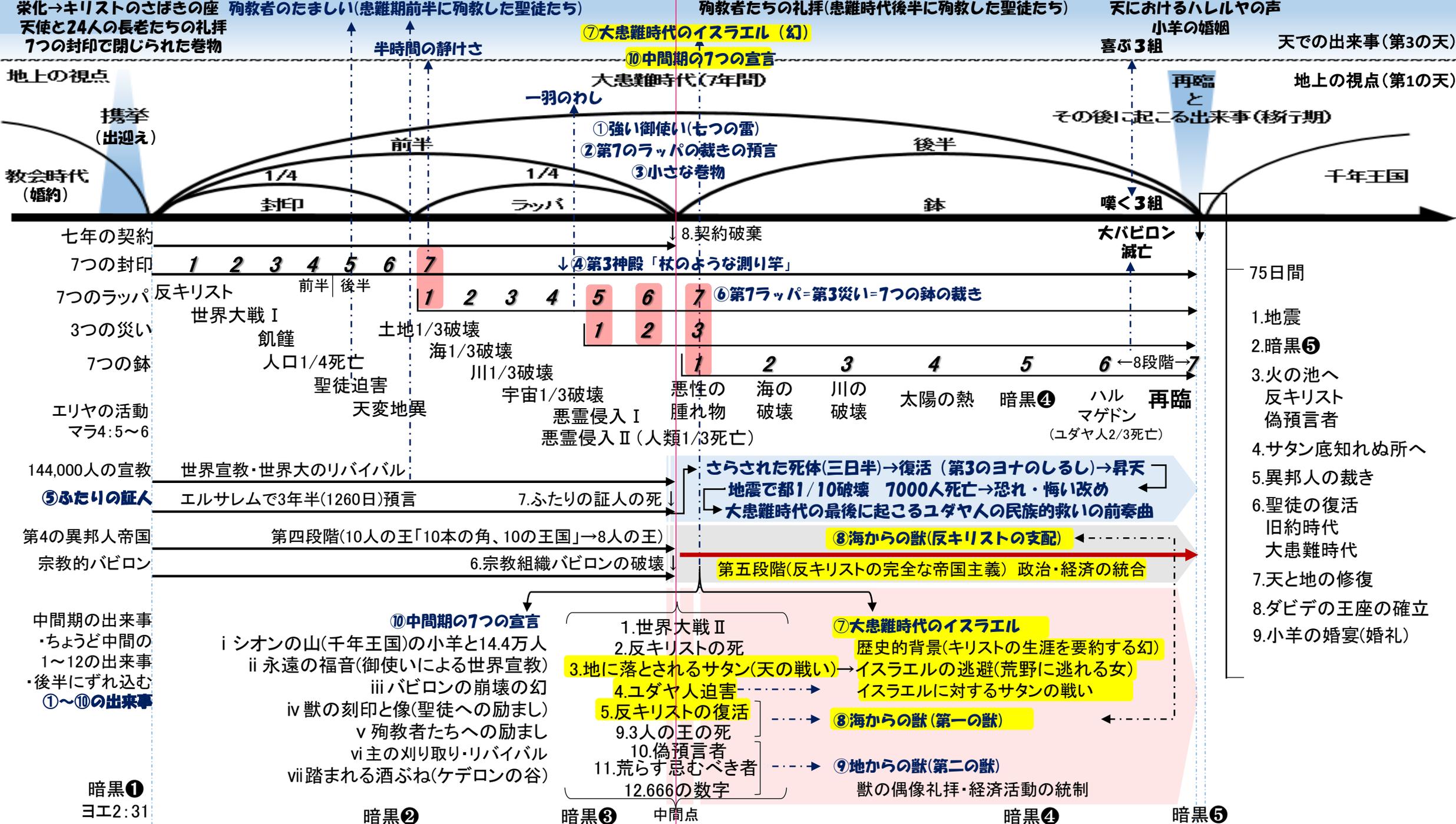
3. 再臨とその後に起こる出来事(19:1～20:3)

4. メシア的王国(20:4～6)

5. その後の出来事(20:7～15)

6. 永遠の御国(21:1～22:5)

結論(22:6～21)



39) 13:1~10 「反キリストの支配」

*海からの獣

13:1 また私は見た。海から一匹の獣が上って来た。 これには十本の角と七つの頭とがあった。 その角には十の冠があり、その頭には神をけがす名があった。 13:2 私の見たその獣は、ひょうに似ており、足は熊の足のようで、口は獅子の口のようであった。 竜はこの獣に、自分の力と位と大きな権威とを与えた。 13:3 その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしまった。 そこで、全地は驚いて、その獣に従い、 13:4 そして、竜を拝んだ。 獣に権威を与えたのが竜だからである。また彼らは獣をも拝んで、「だれがこの獣に比べられよう。だれがこれと戦うことができよう」と言った。

13:5 この獣は、傲慢なことを言い、けがしごとを言う口を与えられ、四十二か月間活動する権威を与えられた。
13:6 そこで、彼はその口を開いて、神に対するけがしごとを言い始めた。すなわち、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちをののしった。 **13:7** 彼はまた聖徒たちに戦いをいどんで打ち勝つことが許され、また、あらゆる部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。
13:8 地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされていない者はみな、彼を拝むようになる。 **13:9** 耳のある者は聞きなさい。 **13:10** とりこになるべき者は、とりこにされて行く。剣で殺す者は、自分も剣で殺されなければならない。ここに聖徒の忍耐と信仰がある。

過去			現在の状態	将来	★大患難時代前半	★大患難時代後半	聖句箇所				
エジプト ?	アッシリヤ ?	異邦人帝国					10本の角	黙13: 1~10 黙17: 9~12			
		第一の異邦人帝国	第二の異邦人帝国	第三の異邦人帝国	第四の異邦人帝国(獣) 帝国主義(帝国主義の5つの段階)						
		獅子のようで 鷹の翼	熊	ひょうのようで 4つの翼	第1段階	第2段階			第3段階	★ 第4段階	★ 第5段階
		頭は金	胸と両腕は銀	腹とももは青銅	大きな鉄のきばと10本の角★				ダニ7: 7~12		
		バビロン	メド・ペルシャ	ギリシア	すねは鉄、足は鉄と粘土				ダニ2: 40~43		
			統一王国 (ローマ帝国) ★ ヨハネの時代	東西分裂 (364年~現在) ★ 現在	統一された 世界政府 ★ 将来	★ 10本の角とは、帝国主義の 第4段階における10人の王。 反キリストが11番目の角として 台頭し3本を倒し8番目の角で ありながら他7人を支配する。 「昔いたが、今はいません。 しかし、やがて底知れぬ所から 上がってきます」 = 反キリストの復活を意味する。 そして彼は二人の証人を殺す。 (黙11:7)	彼(反キリスト)が 来れば しばらくの間 (後半3年半) 世界を支配する。 ★(獣の国)	黙12: 1~5 黙13: 1~10 黙17: 9~12			
					★ 10の王国 10本の角 (同時代の 10人の王「冠」)	★ 8人の王 一時代だけ (黙17: 12)	★ 反キリスト(獣) による支配 (完全な帝国主義)	ダニ7: 7~12 ダニ7: 19~27 ダニ9: 27 ダニ11: 36~45			
第1の頭 (山・王) (統治形態)	第2の頭 (山・王) (統治形態)	第3の頭 (山・王) (統治形態)	第4の頭 (山・王) (統治形態)	第5の頭 (山・王) (統治形態)	★ 第6の頭 (山・王) (統治形態=帝国主義)	★ 第7の頭(反キリスト) による完全な統治形態					
<p>★7つの頭(7つの山・7つの王=完全な帝国主義に至るまでの統治形態の変遷)</p> <p>「五人はすでに倒れたが、ひとりは今おり、ほかのひとは、まだ来ていません」=5人は過去、1人は現在、1人は将来 過去(エジプト?、アッシリヤ?、バビロン、メド・ペルシャ、ギリシア) 現在(ローマ帝国=帝国主義) 将来(反キリストによる独裁)</p>							7つの頭				

サタン・悪霊の行先

	現在・大患難時代前半	大患難時代中間	大患難時代後半	千年王国	永遠の裁き
サタン	第1の天	地上に落とされる	地上でイスラエルを抹殺しようと攻撃する 人類を苦しめる	アビス(底知れぬ穴・所) (ルカ8:31) ※一般の天使によって縛られ幽閉	ゲヘナ (火の池)
悪霊				エドム or バビロン	
悪霊	アビス (底知れぬ穴・所) (ルカ8:31)	地上に解き放たれる (墮天使が開く)			
悪霊 (創6章の墮天使)	タータラス(暗闇の穴)				
★ 獣(反キリスト)	★ 患難期に頭角を現す	★ 死んで復活し 世界を支配	★ 政治・宗教を支配	★ 獣はキリストに殺され(Ⅱテサ2:8) ★ 復活(第2の復活)させられ(イザ14:9-11) ゲヘナ(黙19:20)へ	
偽預言者	-		反キリスト礼拝の 強要・迫害・666の刻印	偽預言者はゲヘナ(火の池)へ	

復活した反キリストは、ふたりの証人を殺す

黙示録11:7

11:7 そして彼らがあかし終わると、底知れぬ所から上って来る獣が、彼らと戦って勝ち、彼らを殺す。

書物について

<p>小羊のいのちの書 黙13:8、17:8</p>	<p>信者(新生した人)の名前が記された書物 信者の名は天地創造の前からその書に記されている</p>
<p>いのちの書 詩139:16、69:28 出32:31~33 黙3:5、20:11~12</p>	<p>地上に誕生した全ての人の名がきさされている書物 罪人のままで死んだ人の名は、その書から消し去られる その人は、白い御座の裁きで裁かれる 千年王国の終了時に「小羊のいのちの書」と「いのちの書」 の内容が合致する</p>
<p>数々の書 黙20:12</p>	<p>各人の行いが記録された書物。信者とは関係ない。 「いのちの書」に記載されていない。 罪人(不信者)の行動が記されており 彼らは、その内容に基づいて裁かれる。 罪人の裁きもそれぞれ程度がある。</p>

序言「まえがき」(1:1~3)

あいさつ(1:4~8)

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9~20)

II. 今ある事: 教会時代(2:1~3:22)

III. この後に起こる事(4:1~22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1~5:14)

2. 大患難時代(6:1~18:24)

(1)大患難時代の前半に起こる出来事(6:1~9:21)

(2)大患難時代の中間に起こる出来事(10:1~14:20)

キリストの生涯を要約する幻(12:1~5) 36

天における戦い(12:6~12) 37

サタンによるユダヤ人迫害(12:13~18) 38

反キリストの支配(13:1~10) 39



★ 第二の獣(13:11~15)

*地から上って来た獣 40

*獣の像の礼拝

*ぎょうの霊想:ヘレン・ケラーとアン・サリヴァンの友情

獣の刻印(13:16~18) 41

シオンの山の上に立つ小羊(14:1~5) 42

第二の宣告から第四の宣告まで(14:6~12) 43

第五の宣告から第七の宣告まで(14:13~20) 44

(3)大患難時代の後半に起こる出来事(15:1~16:21)

(4)反復:2つの大バビロン(17:1~18:24)

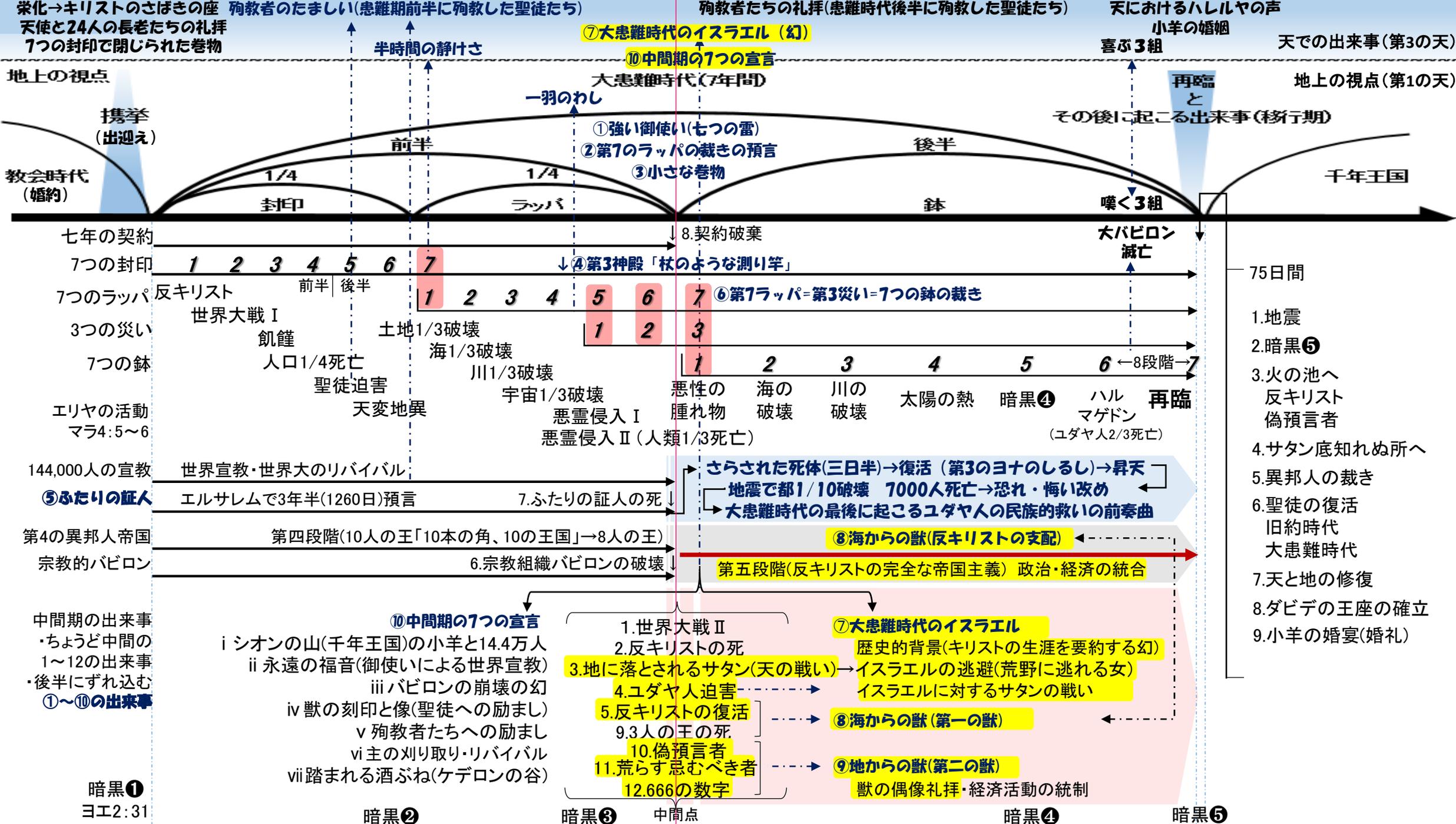
3. 再臨とその後に起こる出来事(19:1~20:3)

4. メシア的王国(20:4~6)

5. その後の出来事(20:7~15)

6. 永遠の御国(21:1~22:5)

結論(22:6~21)



40) 13:11~18 「地からの獣」

*第二の獣：獣の実体とその働き(13:11~15)

13:11 また、私は見た。もう一匹の獣が地から上って来た。 それには小羊のような二本の角があり、竜のようにものを言った。
13:12 この獣は、最初の獣が持っているすべての権威をその獣の前で働かせた。 また、地と地に住む人々に、致命的な傷の直った最初の獣を拝ませた。 13:13 また、人々の前で、火を天から地に降らせるような大きなしるしを行った。 13:14 また、あの獣の前で行うことを許されたしるしをもって地上に住む人々を惑わし、剣の傷を受けながらもなお生き返ったあの獣の像を造るように、地上に住む人々に命じた。 13:15 それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。

第二の獣とはにせ預言者のこと

黙示録16：13

16:13 また、私は竜の口と、獣の口と、にせ預言者の口とから、かえるのような汚れた霊どもが三つ出て来るのを見た。

黙示録19：20

19:20 すると、獣は捕えられた。また、獣の前でしるしを行い、それによって獣の刻印を受けた人々と獣の像を拜む人々とを惑わしたあのにせ預言者も、彼といっしょに捕えられた。そして、このふたひは、硫黄の燃えている火の池に、生きたまま投げ込まれた。

黙示録20：20

20:20 そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。

サタン・悪霊の行先

	現在・大患難時代前半	大患難時代中間	大患難時代後半	千年王国	永遠の裁き
サタン	第1の天	地上に落とされる	地上でイスラエルを 抹殺しようと攻撃する 人類を苦しめる	アビス(底知れぬ穴・所) (ルカ8:31) ※一般の天使によって縛られ幽閉	ゲヘナ (火の池)
悪霊				エドム or バビロン	
悪霊	アビス (底知れぬ穴・所) (ルカ8:31)	地上に解き放たれる (墮天使が開く)			
悪霊 (創6章の墮天使)	タータラス(暗闇の穴)				
獣(反キリスト)	患難期に頭角を現す	死んで復活し 世界を支配	政治・宗教を支配	獣はキリストに殺され(Ⅱテサ2:8) 復活(第2の復活)させられ(イザ14:9-11) ゲヘナ(黙19:20)へ	
★偽預言者	-		★反キリスト礼拝の 強要・迫害・666の刻印	★偽預言者はゲヘナ(火の池)へ	

序言「まえがき」(1:1~3)

あいさつ(1:4~8)

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9~20)

II. 今ある事: 教会時代(2:1~3:22)

III. この後に起こる事(4:1~22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1~5:14)

2. 大患難時代(6:1~18:24)

(1)大患難時代の前半に起こる出来事(6:1~9:21)

(2)大患難時代の中間に起こる出来事(10:1~14:20)

キリストの生涯を要約する幻(12:1~5) 36

天における戦い(12:6~12) 37

サタンによるユダヤ人迫害(12:13~18) 38

反キリストの支配(13:1~10) 39

第二の獣(13:11~15) 40

★ 獣の刻印(13:16~18)

*経済活動の統制 41

*その数字は666

シオンの山の上に立つ小羊(14:1~5) 42

第二の宣告から第四の宣告まで(14:6~12) 43

第五の宣告から第七の宣告まで(14:13~20) 44

(3)大患難時代の後半に起こる出来事(15:1~16:21)

(4)反復:2つの大バビロン(17:1~18:24)

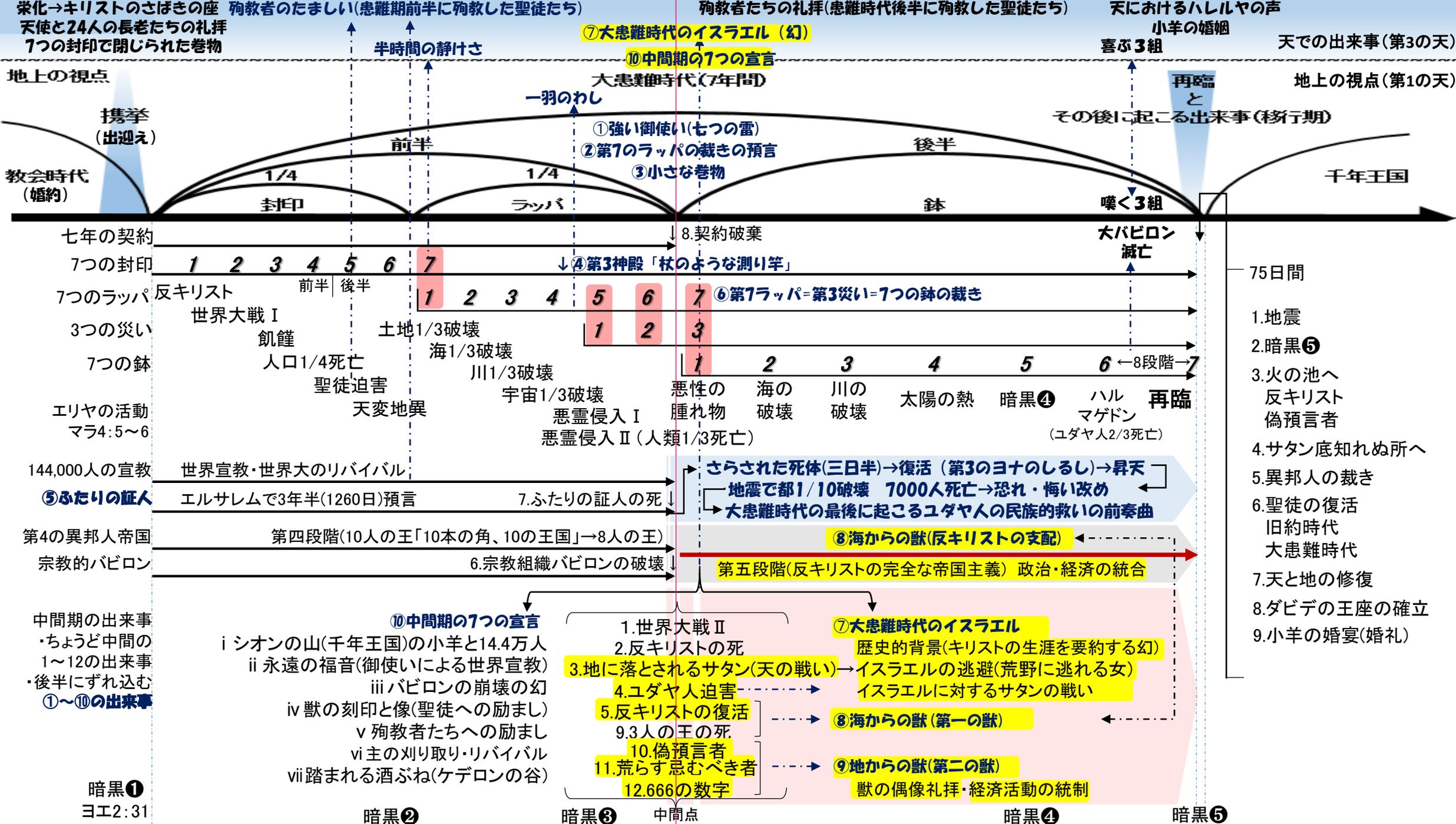
3. 再臨とその後に起こる出来事(19:1~20:3)

4. メシア的王国(20:4~6)

5. その後の出来事(20:7~15)

6. 永遠の御国(21:1~22:5)

結論(22:6~21)



41) 13:11~18 「地からの獣」

*獣の刻印 (13:16~18)

13:16 また、小さい者にも、大きい者にも、富んでいる者にも、貧しい者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々にその右の手かその額かに、刻印を受けさせた。

13:17 また、その刻印、すなわち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買うことも、売ることもしないようにした。 13:18 ここに知恵がある。思慮ある者はその獣の数字を数えなさい。その数字は人間をさしているからである。その数字は六百六十六である。

サタン・悪霊の行先

	現在・大患難時代前半	大患難時代中間	大患難時代後半	千年王国	永遠の裁き
サタン	第1の天	地上に落とされる	地上でイスラエルを 抹殺しようと攻撃する 人類を苦しめる	アビス(底知れぬ穴・所) (ルカ8:31) ※一般の天使によって縛られ幽閉	ゲヘナ (火の池)
悪霊				エドム or バビロン	
悪霊	アビス (底知れぬ穴・所) (ルカ8:31)	地上に解き放たれる (墮天使が開く)			
悪霊 (創6章の墮天使)	タータラス(暗闇の穴)				
獣(反キリスト)	患難期に頭角を現す	死んで復活し 世界を支配	政治・宗教を支配	獣はキリストに殺され(Ⅱテサ2:8) 復活(第2の復活)させられ(イザ14:9-11) ゲヘナ(黙19:20)へ	
★偽預言者	-		★反キリスト礼拝の 強要・迫害・666の刻印	★偽預言者はゲヘナ(火の池)へ	

黙示録14章

～鉢の裁きの2つ理由：中間期の七つの宣言～

序言「まえがき」(1:1~3)

あいさつ(1:4~8)

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9~20)

II. 今ある事: 教会時代(2:1~3:22)

III. この後に起こる事(4:1~22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1~5:14)

2. 大患難時代(6:1~18:24)

(1)大患難時代の前半に起こる出来事(6:1~9:21)

(2)大患難時代の中間に起こる出来事(10:1~14:20)

キリストの生涯を要約する幻(12:1~5) 36

天における戦い(12:6~12) 37

サタンによるユダヤ人迫害(12:13~18) 38

反キリストの支配(13:1~10) 39

第二の獣(13:11~15) 40

獣の刻印(13:16~18) 41

★ シオンの山の上に立つ小羊(14:1~5)

*14章の役割 42

*第一の宣告

第二の宣告から第四の宣告まで(14:6~12) 43

第五の宣告から第七の宣告まで(14:13~20) 44

(3)大患難時代の後半に起こる出来事(15:1~16:21)

(4)反復: 2つの大バビロン(17:1~18:24)

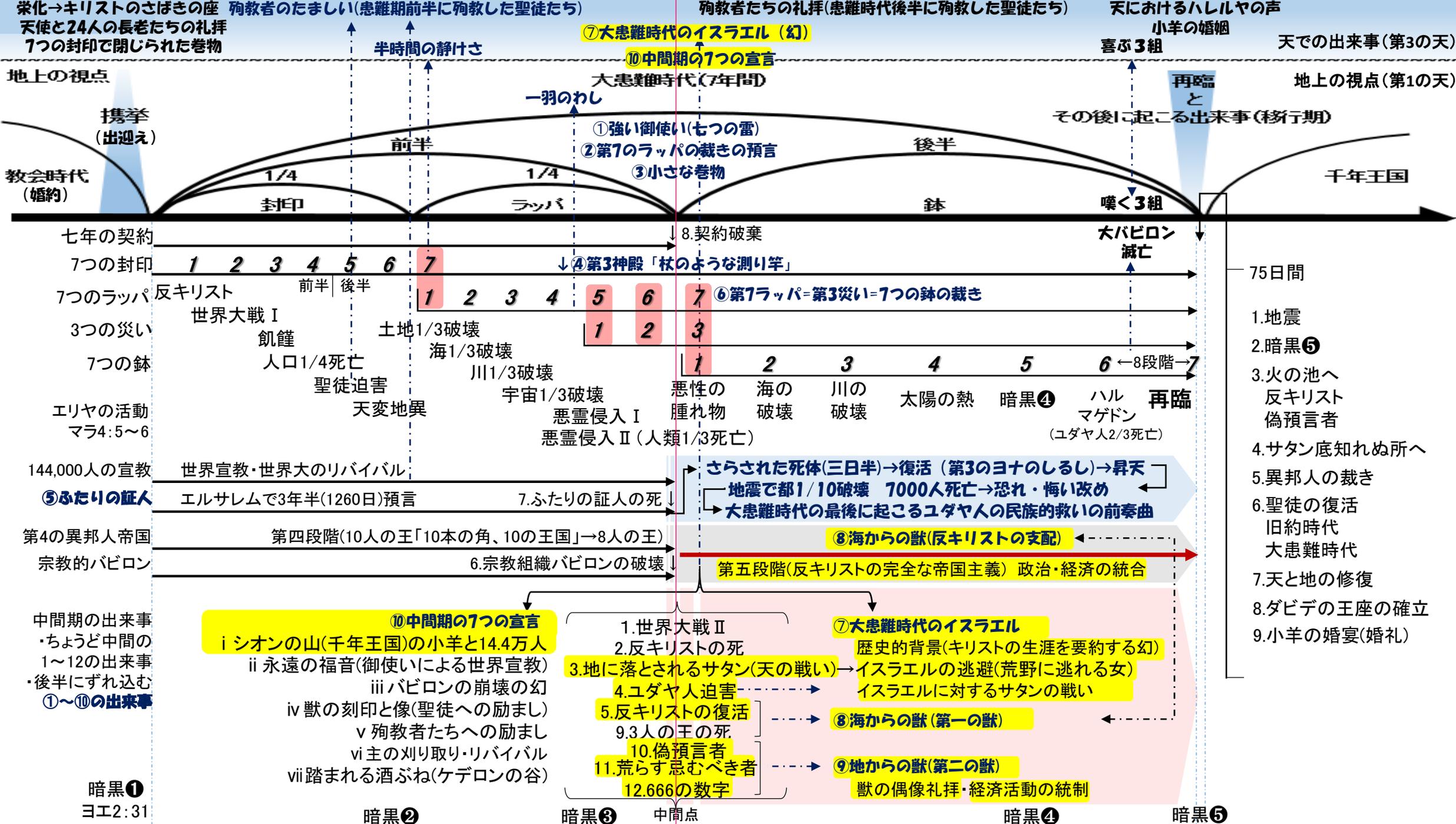
3. 再臨とその後に起こる出来事(19:1~20:3)

4. メシア的王国(20:4~6)

5. その後の出来事(20:7~15)

6. 永遠の御国(21:1~22:5)

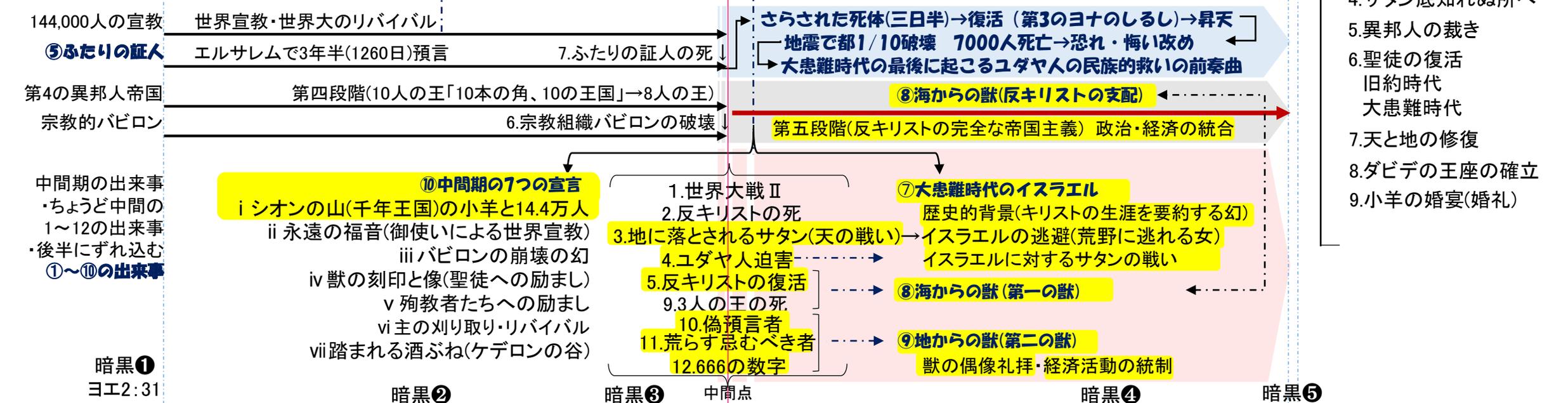
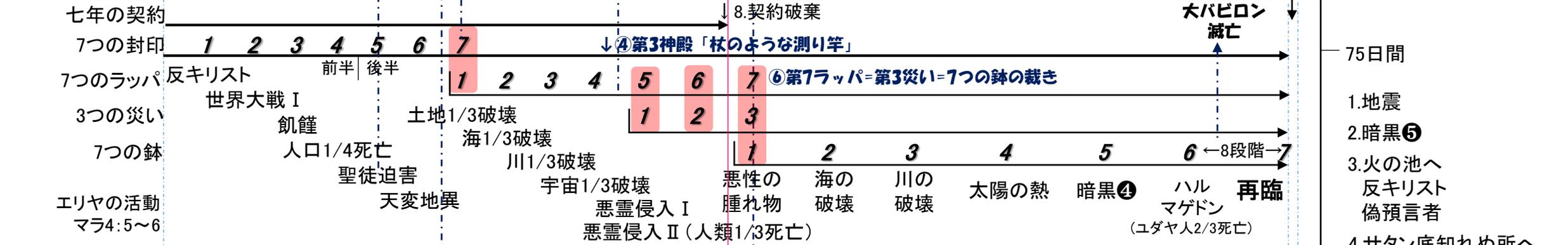
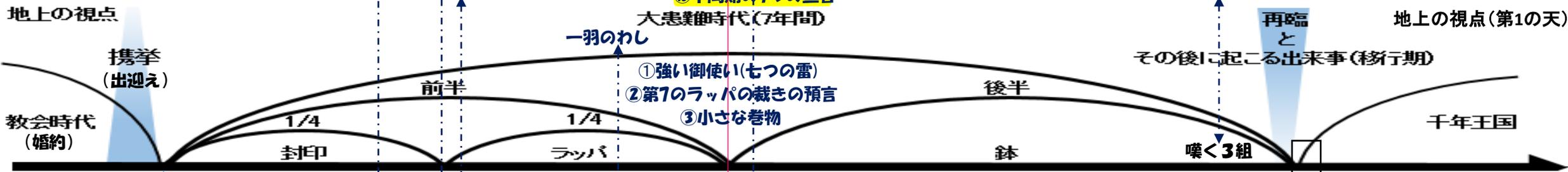
結論(22:6~21)



栄化→キリストのさばきの座 殉教者のたましい(患難前半に殉教した聖徒たち)

殉教者たちの礼拝(患難時代後半に殉教した聖徒たち)

天におけるハレルヤの声



42) 14 : 1~5 「シオンの山の上に立つ小羊」

***第一の宣言：シオンの山の上にたつ144,000人**

14:1 また私は見た。見よ。小羊がシオンの山の上に立っていた。また小羊とともに十四万四千人の人たちがいて、その額には小羊の名と、小羊の父の名とがしるしてあった。 14:2 私は天からの声を聞いた。大水の音のようで、また、激しい雷鳴のようであった。また、私の聞いたその声は、立琴をひく人々が立琴をかき鳴らしている音のようでもあった。 14:3 彼らは、御座の前と、四つの生き物および長老たちの前とで、新しい歌を歌った。しかし地上から贖われた十四万四千人のほかには、だれもこの歌を学ぶことができなかった。 14:4 彼らは女によって汚されたことのない人々である。彼らは童貞なのである。彼らは、小羊が行く所には、どこにでもついて行く。彼らは、神および小羊にささげられる初穂として、人々の中から贖われたのである。 14:5 彼らの口には偽りがなかった。彼らは傷のない者である。

大患難から彼らを守る証印

黙示録7：3～4

7：3 「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしま
うまで、地にも海にも木にも害を与えてはいけない。」

7：4それから私が、印を押された人々の数を聞くと、イ
スラエルの子孫のあらゆる部族の者が印を押されていて、
十四万四千人であった。

序言「まえがき」(1:1~3)

あいさつ(1:4~8)

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9~20)

II. 今ある事: 教会時代(2:1~3:22)

III. この後に起こる事(4:1~22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1~5:14)

2. 大患難時代(6:1~18:24)

(1)大患難時代の前半に起こる出来事(6:1~9:21)

(2)大患難時代の中間に起こる出来事(10:1~14:20)

キリストの生涯を要約する幻(12:1~5) 36

天における戦い(12:6~12) 37

サタンによるユダヤ人迫害(12:13~18) 38

反キリストの支配(13:1~10) 39

第二の獣(13:11~15) 40

獣の刻印(13:16~18) 41

シオンの山の上に立つ小羊(14:1~5) 42

★ 第二の宣告から第四の宣告まで(14:6~12)

*第二の宣告(6~7節) 43

*第三の宣告(8節)

*第四の宣告(9~12節)

*ぎょうの霊想: 先駆者とそれに続く人々

第五の宣告から第七の宣告まで(14:13~20) 44

(3)大患難時代の後半に起こる出来事(15:1~16:21)

(4)反復: 2つの大バビロン(17:1~18:24)

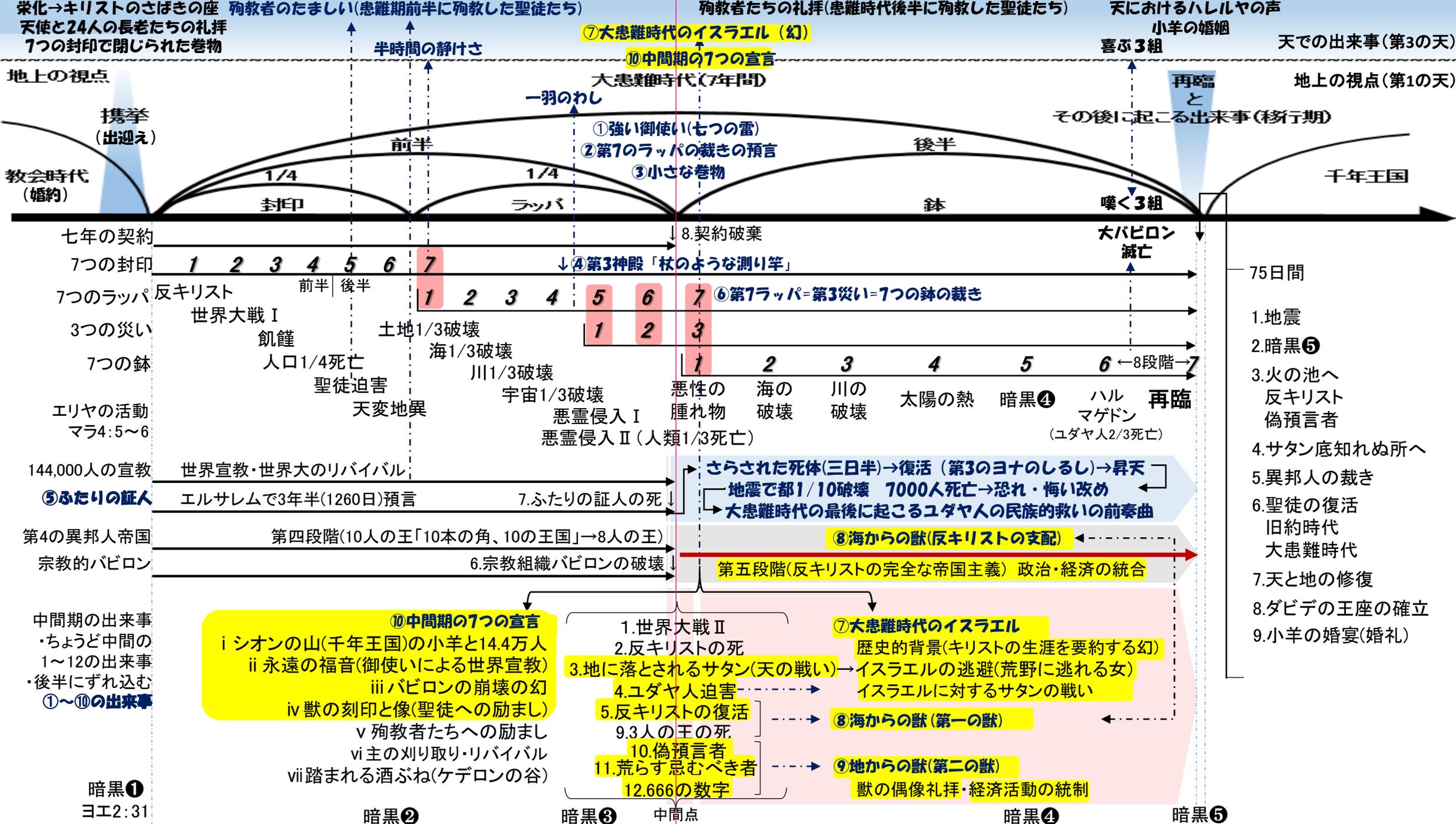
3. 再臨とその後に起こる出来事(19:1~20:3)

4. メシア的王国(20:4~6)

5. その後の出来事(20:7~15)

6. 永遠の御国(21:1~22:5)

結論(22:6~21)



43) 14 : 6~12 「第二の宣告から第四の宣告まで」

*第二の宣言：永遠の福音(14 : 6~7)

14:6 また私は、もうひとりの御使いが中天を飛ぶのを見た。彼は、地上に住む人々、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音を携えていた。14:7 彼は大声で言った。「神を恐れ、神をあがめよ。神のさばきの時が来たからである。天と地と海と水の源を創造した方を拝め。」

43) 14 : 6~12 「第二の宣告から第四の宣告まで」

*第三の宣言：バビロンの崩壊（14：8）

14:8 また、第二の、別の御使いが続いてやって来て、言った。「大バビロンは倒れた。倒れた。激しい御怒りを引き起こすその不品行のぶどう酒を、すべての国々の民に飲ませた者。」

43) 14:6~12 「第二の宣告から第四の宣告まで」

*第四の宣言：獣の刻印(14:9~12)

14:9 また、第三の、別の御使いも、彼らに続いてやって来て、大声で言った。「もし、だれでも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けると、14:10 そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲む。また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。14:11 そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る。獣とその像とを拝む者、まただれでも獣の名の刻印を受けると、昼も夜も休みを得ない。14:12 神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける聖徒たちの忍耐はここにある。」

序言「まえがき」(1:1~3)

あいさつ(1:4~8)

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9~20)

II. 今ある事: 教会時代(2:1~3:22)

III. この後に起こる事(4:1~22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1~5:14)

2. 大患難時代(6:1~18:24)

(1)大患難時代の前半に起こる出来事(6:1~9:21)

(2)大患難時代の中間に起こる出来事(10:1~14:20)

キリストの生涯を要約する幻(12:1~5) 36

天における戦い(12:6~12) 37

サタンによるユダヤ人迫害(12:13~18) 38

反キリストの支配(13:1~10) 39

第二の獣(13:11~15) 40

獣の刻印(13:16~18) 41

シオンの山の上に立つ小羊(14:1~5) 42

第二の宣告から第四の宣告まで(14:6~12) 43



第五の宣告から第七の宣告まで(14:13~20)

*第五の宣告(13節) 44

*第六の宣告(14~16節)

*第七の宣告(17~20節)

(3)大患難時代の後半に起こる出来事(15:1~16:21)

(4)反復:2つの大バビロン(17:1~18:24)

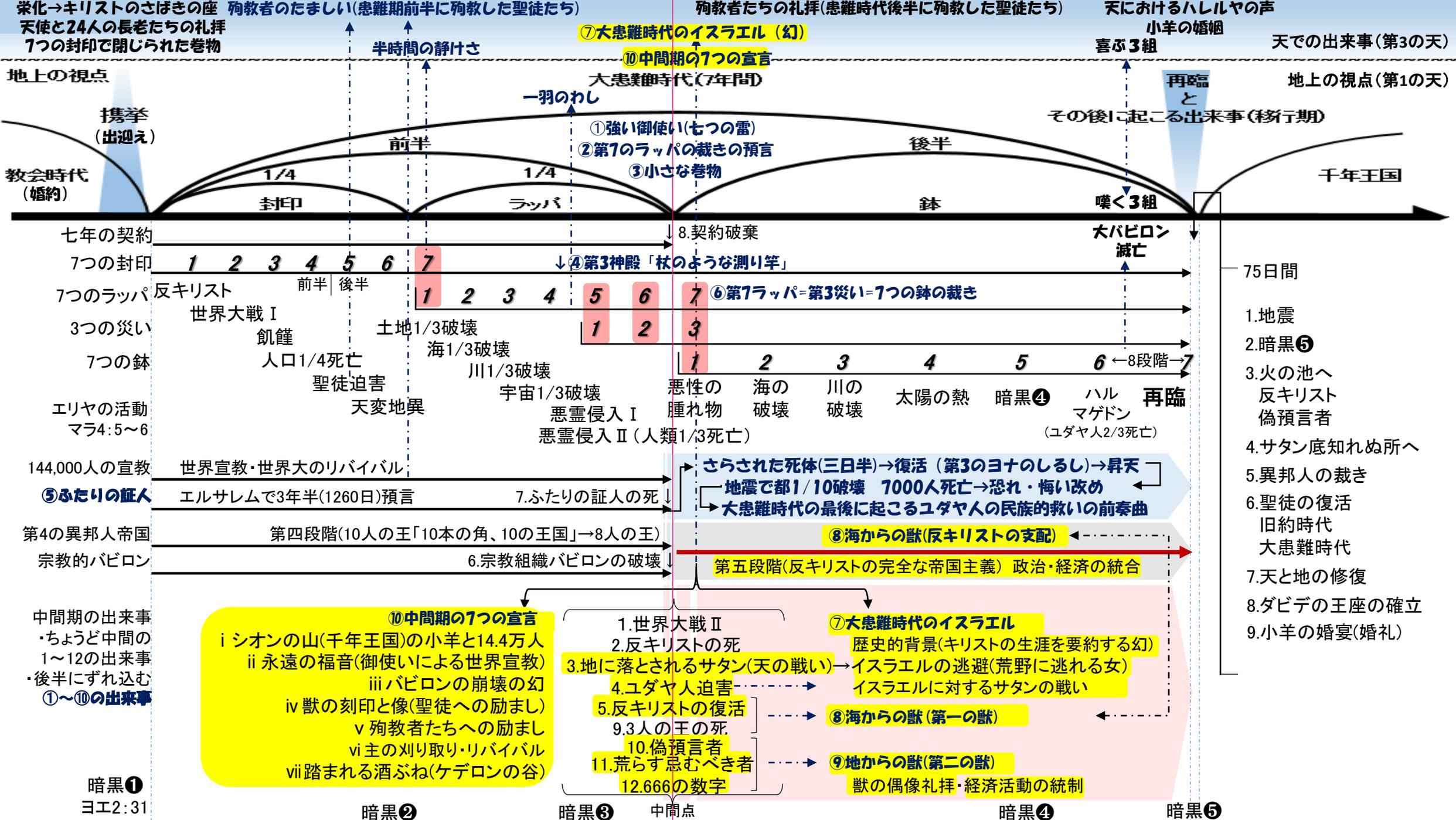
3. 再臨とその後に起こる出来事(19:1~20:3)

4. メシア的王国(20:4~6)

5. その後の出来事(20:7~15)

6. 永遠の御国(21:1~22:5)

結論(22:6~21)



44) 14 : 13~20 「第五の宣告から第七の宣告まで」 *第五の宣言 : 殉教者たち(14 : 13)

14:13 また私は、天からこう言っている声を聞いた。
「書きしるせ。『今から後、主にあって死ぬ死者は幸いである。』」御霊も言われる。「しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。彼らの行いは彼らについて行くからである。」

44) 14 : 13~20 「第五の宣告から第七の宣告まで *第六の宣言 : 刈り取り(14 : 14~16)

14:14 また、私は見た。見よ。白い雲が起こり、その雲に人の子のような方が乗っておられた。頭には金の冠をかぶり、手には鋭いかまを持っておられた。14:15 すると、もうひとりの御使いが聖所から出て来て、雲に乗っておられる方に向かって大声で叫んだ。「かまを入れて刈り取ってください。地の穀物は実ったので、取り入れる時が来ましたから。」14:16 そこで、雲に乗っておられる方が、地にかまを入れると地は刈り取られた。14:17 また、もうひとりの御使いが、天の聖所から出て来たが、この御使いも、鋭いかまを持っていた。

44) 14 : 13~20 「第五の宣告から第七の宣告まで

*第七の宣言 : 踏まれる酒ぶね(14 : 17~20)

14:18 すると、火を支配する権威を持ったもうひとりの御使いが、祭壇から出て来て、鋭いかまを持つ御使いに大声で叫んで言った。「その鋭いかまを入れ、地のぶどうのぶさを刈り集めよ。ぶどうはすでに熟しているのだから。」 14:19 そこで御使いは地にかまを入れ、地のぶどうを刈り集めて、神の激しい怒りの大きな酒ぶねに投げ入れた。 14:20 その酒ぶねは都の外で踏まれたが、血は、その酒ぶねから流れ出て、馬のくつわに届くほどになり、千六百スタティオンに広がった。

ケテロンの谷での勝利

ヨエ3:12~13

3:12 諸国の民は起き上がり、ヨシャパテの谷に上って来い。わたしが、そこで、回りのすべての国々をさばくために、さばきの座に着くからだ。 3:13 かまを入れよ。刈り入れの時は熟した。来て、踏め。酒ぶねは満ち、石がめはあふれている。彼らの悪がひどいからだ。

※ヨシャパテの谷：主は裁き給うたの意

・血が流れ、深さは馬のくつわに届くほど、距離は約300kmにも及ぶ。

※1スタティオン≒185m $1,600 \times 185m = 296km$

・これは、ハルマゲドンの戦いの預言である。

まとめ

- * 14章の7つの宣言は、
偽の三位一体に対する神の勝利を預言している。
- * と同時に、なぜ厳しいさばき(7つの鉢のさばき)が
地上に下るのかを説明する役割も果たしている。
- * 神は最後まで、罪人がご自身のもとに
立ち返るように願っておられる。

IV. 結論：中間期にも溢れる神の愛と恵み

(1)最終的勝利について

①神

…**栄光**(永遠の秩序)

②キリスト

…**再臨**(条件は、ユダヤ人の民族的回心)

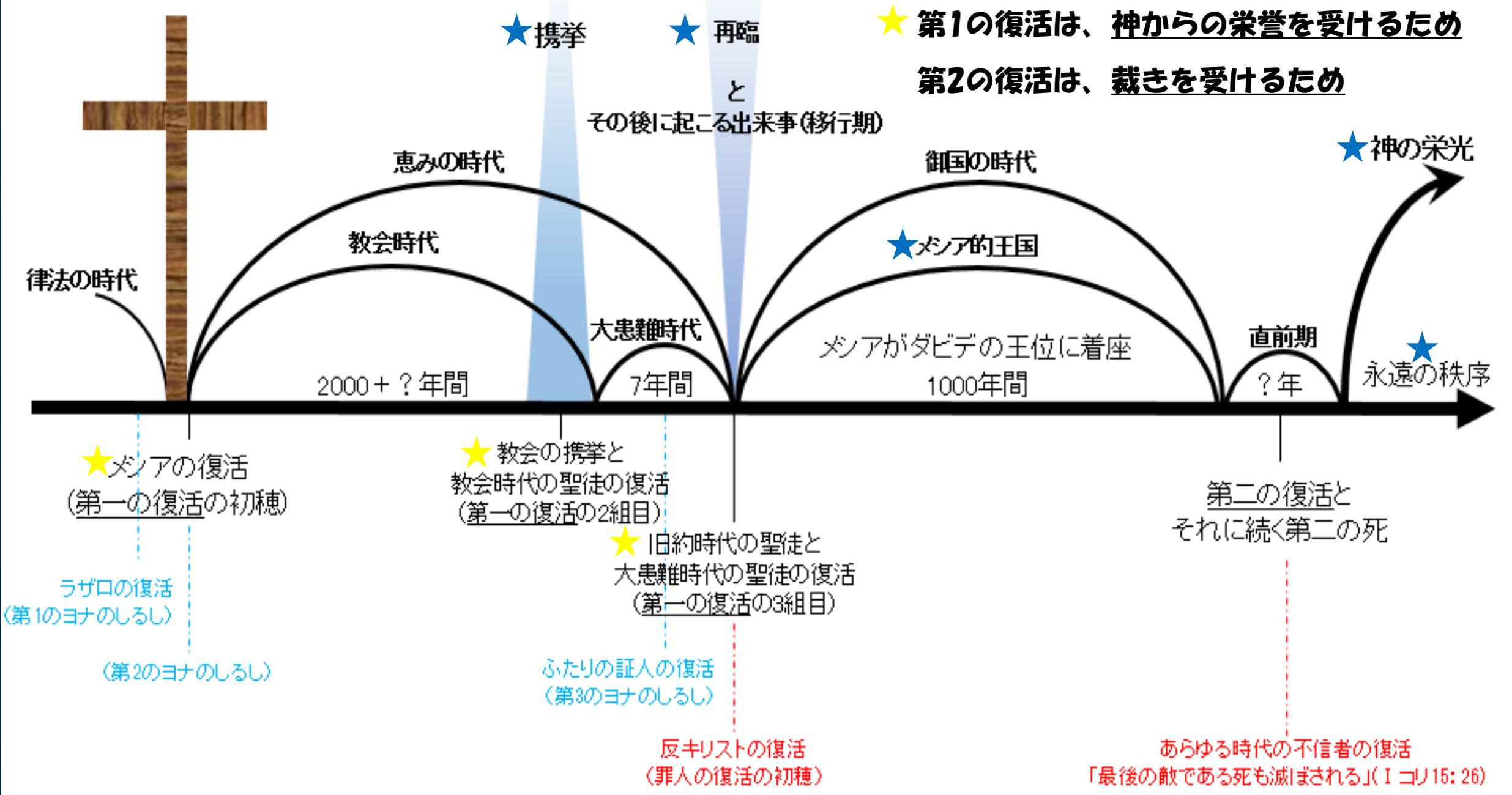
③クリスチャン(聖徒)

…**携挙・聖徒の復活**(第1の復活は、神からの栄誉を受けるため)

いかなる困難に遭遇しようとも

最後が勝利で終わることを知っている人は、幸いです。

主イエスにある最終的な勝利を確信する人は幸いです。



(2) 聖霊の働き

- ① 聖霊は、キリストの栄光を表し
キリストの基に導いて下さる。
- ② 聖霊は、数々の賜物を与え
霊的な戦いに勝利させて下さる。
- ③ 聖霊は、キリストを通して
神に礼拝を捧げる様、導いて下さる。

聖霊の助けなしにクリスチャン生活は不可能！

私たちは、キリストのものとなり
聖霊によって証印を押されました！

では

聖霊を悲しませないような歩みを心がけるとは？

自分のいのちのドアを管理するとは？

どうすればよいのか？

聖書フォーラム運動の基本理念

「**自立と共生**」がキーワード。

- ・一人ひとりが、自立していること。
- ・お互いの個性を大切に、一緒に成長すること。

私たちの**ABC**

AIM ... 聖書フォーラム運動の目的は、「神の栄光」を表し、求めること。
私たちは、この人生を通じ、神を誉め称えるために創られました。

BASIS ... 私たちの土台は、ユダヤ的視点により聖書を解釈すること。
当時の人たちが理解した方法で、聖書を字義通りに理解します。

CONCEPT ... 自主性を重んじ、経済的・精神的に自立した
お互い同士、小さなグループ同士が、ゆるやかにつながり合います。

自立への道

教会の病理現象 (FATIM) からの脱却

①形式主義(FORMALISM)から自由主義(FREEDOM)へ

1. キリストにある自由
2. 愛を働かせるための自由

②権威主義(AUTHORITARIANISM)から自治(AUTONOMY)へ

1. 自給伝道
2. 自主運営

③伝統主義(TRADITIONALISM)から変革(TRANSFORMATION)へ

1. ユダヤ的聖書解釈
2. 神の国の視点

④内向き志向(INWARD-LOOKING)から外向き志向(OUTWARD-LOOKING)へ

1. キリスト教を世界観としてとらえる。
2. キリスト教を歴史観としてとらえる。

⑤会員志向(MEMBERSHIP-ORIENTED)から流動志向(MIGRATION-ORIENTED)へ

1. 歴史の流れと社会の現状を読む。
2. 自らの動機の再確認。

モットー

「聖書研究から日本の霊的覚醒（目覚め）が」

「**教理**」と「**実践**」という二面性は、

「**真理**」と「**愛**」ということばで置き換えることができます。

「**真理**」（教理）と「**愛**」（実践）の**調和**にこそ、

真のクリスチャン生活があるのです。

時代区分	過去					現在	未来	神の栄光 時間を 超越した 永遠の秩序 <u>黙21:1</u> ~22:5
	① ~無垢の 時代~	② ~良心の 時代~	③ ~人間による 統治の時代~	④ ~約束の 時代~	⑤ ~律法の 時代~	⑥ ~恵みの 時代~	⑦ ~御国の 時代~	
聖書箇所	創1:28 ~3:8	創3:9 ~8:14	創8:15 ~11:32	創12:1 ~出18:27	出19:1 ~使徒1:26	使徒2:1 ~黙19:21	黙20:1 ~10	
中心人物	アダム	アダム	ノア	アブラハム	モーセ	パウロ	メシア	
1. エデン契約 聖書箇所	→							
2. アダム契約 聖書箇所		→						
3. ノア契約 聖書箇所			→					
4. アブラハム契約 聖書箇所				→				
5. モーセ契約 聖書箇所					→			
6. 土地の契約 聖書箇所						→		
7. ダビデ契約 聖書箇所							→	
8. 新しい契約 聖書箇所							→	

・創1:26~31・創2:16~17

【2】

・創3:14~19

【3】

・創9:1~17

【4】

・創12:1~3 ・創12:7 ・創13:14~17
・創15:1~21 ・創17:1~21 ・創22:15~18

【5】

・出19:3~8 ・広くは出20:1~31:18

【6:土地】

・申29:1~30:1 *特に申29:1に注目

【7:子孫】

・Ⅱサム7:11b~17(ソロモン強調) ・Ⅰ歴17:10b~15(メシア強調)

【8:祝福】

・エレ31:31~34

(3)神の約束は永遠に有効であり変わらない。

- ・ 恵み深く、憐れみ深い神。**
- ・ イスラエルを守ると言われた神の約束は永遠に有効(創世記～黙示録)です。**
- ・ 大患難時代後半の霊的な収穫(世界大リバイバル)を刈取るのはキリストご自身。**
- ・ 神は最後の最後まで、罪人が悔い改め、立ち帰るように願っておられる。**

天と地と海と水の源を創造した方
全知全能の神に、
賛美と栄光と力が永遠にあるように。

黙示録を学ばれる兄弟姉妹に
主の特別な祝福がありますように！
アーメン



第6回講解 おわり

次回の予定

2016/7/16 (土) in元町

序言「まえがき」(1:1～3)

あいさつ(1:4～8)

I. ヨハネが見た事: 栄光に輝く人の子(1:9～20)

II. 今ある事: 教会時代(2:1～3:22)

III. この後に起こる事(4:1～22:5)

1. 大患難時代の前に起こる出来事(4:1～5:14)

2. 大患難時代(6:1～18:24)

(1)大患難時代の前半に起こる出来事(6:1～9:21)

(2)大患難時代の中間に起こる出来事(10:1～14:20)

(3)大患難時代の後半に起こる出来事(15:1～16:21)

栄光に満ちた天の礼拝の幻(15:1～8) 45

第一の鉢から第三の鉢(16:1～7) 46

第四の鉢から第五の鉢(16:8～11) 47

第六の鉢とハルマゲドン(16:12～16) 48

第七の鉢とハルマゲドン(16:17～21) 49

(4)反復:2つの大バビロン(17:1～18:24)

3. 再臨とその後に起こる出来事(19:1～20:3)

4. メシア的王国(20:4～6)

5. その後の出来事(20:7～15)

6. 永遠の御国(21:1～22:5)

結論(22:6～21)

では学んだことを
分かち合いましょう！

